



AOI MORI SHINKIN REPORT  
青い森しんきんの現況  
2023年3月期 **2023**  
2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日  
【企業編】



## 経営の基本方針

# 青い森信用金庫は次に掲げる基本方針によって経営する

すべての業務活動は基本方針を実現するために行われるものであり、  
役職員はこの基本方針に従い、それぞれの職責を自覚し、その実現に努めなければならない。

## 01 地域社会に対する貢献

一般大衆ならびに中小企業のための専門金融機関として、金融面から地域社会の発展、地域住民の繁栄に貢献する。

## 02 調和のある経営

経営活動の基盤は会員、取引者ならびに役職員であり、そのいずれに対しても公正で調和のとれた経営を行う。

## 03 経営の安定と発展

常に創意と工夫によって、経営の質的向上と合理化を図り、適正な利益の確保と内部蓄積の充実に努める。

## 金庫訓

青い森信用金庫では、地域のお客さまとの“笑顔”を大切にし、“お客さま第一”での接客応対を目指しております。地域のお客さまから、より一層の“笑顔”をいただけるよう、次のとおり金庫訓「私たちの誓い」を掲げ、役職員一同行動してまいります。

### 私たちの誓い

1. 私たちの仕事は、お客様に「笑顔」を届けることです
1. 私たちの仕事は、お客様から「笑顔」をいただくことです
1. 私たちの使命は、地域を「笑顔」にすることです

## Contents

経営の基本方針	巻頭
ごあいさつ	01
2022年度業績の概要	02
青い森信用金庫と地域社会	04
持続可能な地域社会の実現に向けて	05
中小企業の経営支援のための取組み	06
地域の環境保全のための取組み	09
地域活性化のための取組み	10
総代会	12
役員・組織図	15
リスク管理とコンプライアンス体制	16
Q&A お客様のご質問にお答えします	19
各種手数料のご案内	22
店舗のご案内	24
店外ATMコーナーのご案内	27
開示項目一覧	28
トピックス(創立100周年)	巻末

## 当金庫のプロフィール

(2023年3月31日現在)

**創立** 大正11年12月27日

**本店所在地** 青森県八戸市大字八日町18番地

**出資金** 90億1,287万円(優先出資含む)

**会員数** 72,956名

**常勤役職員数** 446名

**店舗数** 41店舗

**営業地区** 青森県、秋田県鹿角市のうち十和田および鹿角郡小坂町

 **青い森信用金庫**

当金庫では、本誌“青い森しんきんの現況2023【企業編】”及び“青い森しんきんの現況2023【資料編】”を青い森信用金庫ホームページにて公開しています。  
パソコン、スマートフォン、タブレット端末などでご覧いただけます。  
<https://www.aoimorishinkin.co.jp/disclo.html#hr202303>



# ごあいさつ



理事長  
**益子 政士**

皆様には、平素より青い森信用金庫に対しまして、格別のご理解とお引き立てを賜り心より厚く御礼申し上げます。

本年も、当金庫の経営方針をはじめ、業務内容、財務内容、地域貢献活動等の事業活動を掲載したディスクロージャー誌「青い森しんきの現況2023」を作成いたしましたので、ご高覧賜り、当金庫の経営についてご理解を深めていただければ幸いに存じます。

さて、2022年度を顧みますと、県内経済は新型コロナウイルスやウクライナ情勢等に起因する原油や原材料の高騰、日米間の金利格差拡大を背景とした円安や物価上昇などの影響を受けましたが、一方では、猛威を振るってきたコロナ禍の落ち着きと共に行動制限は徐々に緩和傾向にあり、感染症法上の位置づけの見直し等も含め、ウィズコロナのあり方や、今後のアフターコロナへ向けた取り組み方が一層重要になってくるものと考えております。

こうした情勢のもと、2022年度決算においては、地域の皆様の信頼に応えるため、経営の効率化や健全化に努めた結果、後掲通りの業績をおさめることができました。これもひとえに総代および会員の皆様をはじめ、お取引先各位のご理解とご愛顧の賜と深く感謝申し上げます。

2023年度は、引き続き不透明な状況がつづくことが予想されますが、お客さまの抱える課題にしっかりと寄り添い、地域経済を支えていくため、役職員一同努めてまいります。

何とぞ今後とも相変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまの一層のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げ、ごあいさつといたします。

2023年7月

# 2022年度業績の概要

## 預 金

### 預金残高

# 6,441 億円

預金残高は、前期末比16億円減少し6,441億円となりました。

内訳は要払性預金が131億円増加しましたが、定期性預金が148億円減少となりました。

人格別について、個人預金は長引くマイナス金利の影響に伴う定期預金の低金利等が要因となり、解約金の普通預金へのシフトが進んだことから、定期性預金が154億円減少し、要払性預金が126億円増加しました。その結果、合計28億円の減少となりました。

法人預金は要払性、定期性共に増加し、合計12億円増加となりました。

## 貸出金

### 貸出金残高

# 2,369 億円

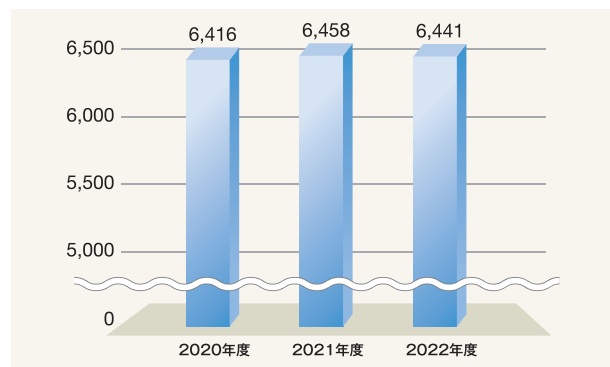
貸出金残高は、前期末比2億円増加し2,369億円となりました。事業資金が9億円の増加となりましたが、個人資金が6億円減少となりました。また、地方公共団体向け貸出は横ばいで推移しました。

業種別では、建設業で17億円増加、物品賃貸業で7億円増加となりましたが、漁業で8億円減少、不動産業で8億円減少などとなりました。

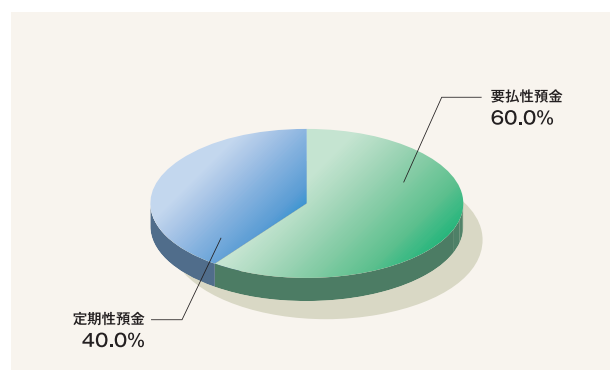


●預金残高推移 ※譲渡性預金含む

(単位:億円)

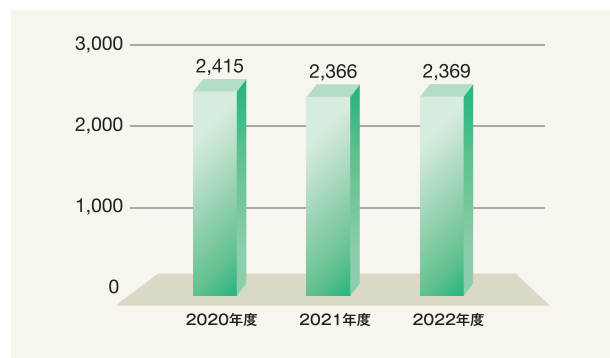


●預金残高構成 (2022年度) ※譲渡性預金は定期性預金に含む



●貸出金残高推移

(単位:億円)



### 2023年3月末現在貸出金残高の構成

#### 総貸出金 236,916百万円の内訳

事業者へのご融資	138,281百万円
うち設備資金	57,699百万円
うち運転資金	80,582百万円
個人へのご融資	70,292百万円
うち住宅資金	45,440百万円
うち消費資金	24,852百万円
地方公共団体へのご融資	28,343百万円

当金庫の2023年3月末の預貸率は **36.77%** です。  
(譲渡性預金含む)

## 有価証券

### 有価証券残高

# 1,743億円

有価証券残高は、前期末比126億円減少し1,743億円となりました。市場動向に留意しながら慎重かつ堅実な運用を行い、社債が前期末比55億円増加しましたが、地方債が148億円減少、国債が56億円減少などとなりました。

預け金等を含めた余資運用資金全体の残高は前期末比268億円減少し4,230億円となりました。

## 損益

### 当期純利益

# 4億2百万円

経常収益は、貸出金利息収入や有価証券利息配当金が減少したことなどから前期末比1億20百万円減少し76億38百万円となりました。

一方、経常費用は、経費が減少したほか貸倒引当金繰入額が減少したことなどから前期末比3億80百万円減少し67億54百万円となりました。これにより経常利益は前期末比2億60百万円増加し8億83百万円となり、当期純利益は、店舗統合に伴う減損損失を計上したことなどから、前期末比68百万円減少し4億2百万円となりました。

## 自己資本

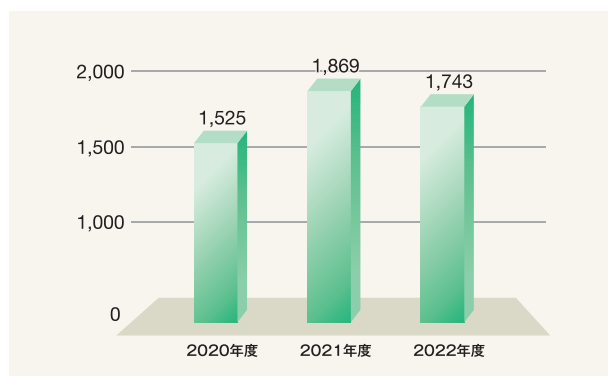
### 自己資本比率

# 11.26%

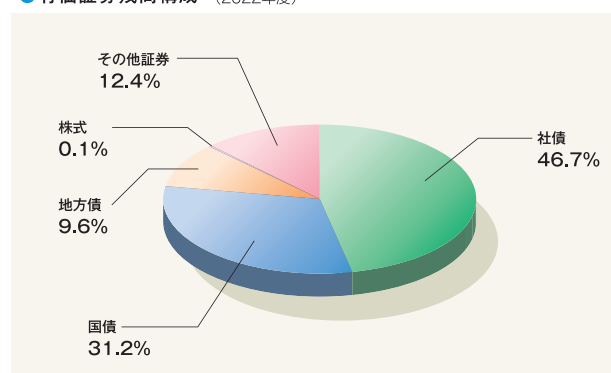
自己資本比率の分子となる自己資本額は利益金を積み上げたこと等から前期比約3億円増加し265億円となりました。一方、分母となるリスク・アセットは前期比6億円減少の2,360億円となったことから、自己資本比率は前期比0.18ポイント上昇し、11.26%となりました。自己資本比率の国内基準である4%を大きく上回る水準を引き続き確保しております。

### ●有価証券残高推移

(単位:億円)

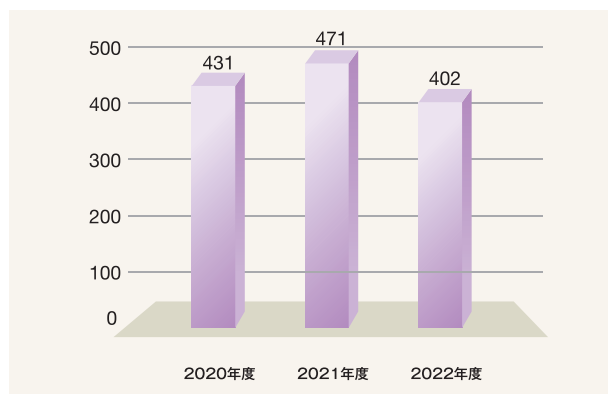


### ●有価証券残高構成 (2022年度)



### ●当期純利益推移

(単位:百万円)



### ●自己資本推移

■自己資本額 ●自己資本比率

